付１９話　再度留学へ No.1

Gould 教授より、論文を ASME に投稿し、採択されたという手紙が来た。ASME の大会がワシントンで開催され、合わせて”Nonlinear Finite Element Analysis of Plates and Shells”という特別セッションが開かれる。15 編の論文が採択され、その一つとして講演する。留学の続きとワシントンでの大会に出席することになった。

現在では、我が大学の建築学科でも、若い研究者が海外に多数留学する時代となった。私の留学経験を話す機会があると、半年留学したと、つい言ってしまう。当初は 1 年の計画が 3 カ月弱となった経緯は話すと長くなるのでそこは省いてしまう。申し訳ない。1 年後留学の続きでセントルイスに再度出かけるが、やはり思わぬ事情ができ一ヵ月足らずで戻ることになる。何たる不幸、向上心のなさが招くことになる。今思えば、共同研究には程遠いが、留学の経験は何事にも代えがたい。若い読者は、積極的にチャンスを掴み、語学留学でもホームステイでも何でも良いから留学することをお勧めする。日本と異なる文化を経験すれば、幅広い価値観が生まれ、その後の人生が豊かになる。

冬の大会に合わせて、成田から再びアメリカに向かう。今回は直接ロサンゼルスに到着、入国審査もスムーズに済ませる。またもや、図々しく A 君のところに宿泊し、2，3 日後セントルイスに行く予定である。ここで、アメリカ人と日本人の性格の違いについて聞いた話を紹介する。まず、着席位置であるが、アメリカ人は真ん中を選び、日本人は隅を、しかも窓際を選ぶ。両者共にそこが上席だと思うから面白い。講義や公演で聴衆の座る位置も同様に、アメリカでは正面の真ん中から、日本では後部か横隅の座席から埋まる。学生に前中央に座れと言っても、なかなか移動しない。やはり、日本人は特異な性格なのだろうか。

A 君たちのグループと私の Welcome ディナーに行く。高級レストランである。窓際に案内されたが、憤慨し席を代えろと交渉する。窓際で静かなら最適だと思うが、真ん中の席に座らせよという。特にアメリカ人が執拗に交渉し、変更してもらう。後から理由を聞くと、アジア人が混じり、アメリカ人も若いのでウエイターが見下しているという。本当に分からないものだ。日本人はシャイな人が多いが、アメリカ人はアグレッシブだ。特に、質問に対する挙手にも見られる。アメリカ人は、まず手を上げ、それから考える。間違っても平気、指名さ

れ顔を覚えて貰うことが大切だという。日本人は答えが分かっても手を上げない。間違って恥をかくのが嫌だと思うらしい。日本は農耕民族、アメリカは狩猟民族、しかも移民を含めた多民族国家である。黙っていると自分が一般人に埋没する。日本では単一民族、互いに意識を共有し、何も言わなくても相手が忖度する。

後年、中国上海の同済大学に数日間、コンピュータのソフト開発に関する教育に行ったことがある。その時感じたことは、アメリカ人と中国人は類似点が多いことだ。どちらも多民族国家でアグレッシブ、他人を気にせず、意見や自己主張をする。買い物好きで、投資が大好きである。国民の多くは地球の中心は自国だと思っている。ただし、外国のことは興味もないし、知らない人が多い。似た者同士の大国、いずれは価値観や政治体制の違いによってぶつかるかもしれない。

再び、ロサンゼルスからセントルイスに出発だ。ニューヨークは凄く寒い、オーバーを持って行けと言われ、バーバリーのコートを A 君から手渡された。ロサンゼルスは暖かく軽装、ほんとに必要かなと思いつつ携帯した。宿泊は前年と同じホテル、研究室も同じである。日々の留学生活が再開する。教授にアポをとり、論文発表の打ち合わせをする。前半の理論編を Gould 先生、後半の解析結果を私が説明する。日本から持ってきた発表用スライドを厳選し、発表内容を詰めていく。語学に自信がないので、発表用の原稿を作成する。

午後にはティータイムがある。いつも午後 3 時頃になると、研究室からゾロゾロと人が集合する。コーヒーとティとお菓子が用意され、その隣には瓶がある。1 ドルを入れ、飲み物を手にする。教授から学生まで、研究から世間話まで話が弾む、と思うが早口なので多くはついていけない。Gould 教授に一人の老教授を紹介された。ガランボス(T. V. Galambos)教授である。今年から赴任したという。同先生は、1960 年代、アメリカのリーハイ大学で鉄骨の座屈実験を数多く行い、名古屋大学の福本教授と共に弾塑性座屈に関連して、残留応力を考慮した柱の耐力式を提案した。小柄で温厚そうな老先生であるが、鉄骨の分野では高名である。Gould 教授がテニア(Tenure)の資格を得たという。記念講演とパーティに出席する。テニアとは終身雇用のことで、自分で退職するというまで立場が保証される。十分な業績がなければなれない。晴れやかな姿が印象的。若いのにたいしたものだ。

ASME でのホテルと飛行機の予約を秘書に依頼する。その後のニューヨーク、サンフランシスコ、ロサンゼルスへの予約もお願いした。頼めば快く引き受けてくれる。いざ、ワシントンに出発だ。